

## 令和3年度 第1回 台東区地域包括支援センター全体会議 議事概要

日時：令和3年7月29日（木） ※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面開催

出席者：17名

新田委員 須田委員 加藤委員 木山委員 中富委員 川又委員 山村委員  
石井委員 宮本委員 小竹委員 平野委員 澤瀉委員 柴田委員 和泉澤委員  
武田委員 原嶋委員 高木委員

### ●令和2年度 地域ケア会議の実施状況について 資料1 資料2

台東区における地域ケア会議の各会議体の名称・目的は資料1でご確認ください。

令和3年3月末時点での各会議体の実施回数は、資料2でご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の影響で、①自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議は高齢者本人が参加することや、地域の教室や通いの場が活動していないことなどを鑑み、令和2年度分の開催を中止しました。それと付随して、『個別課題検討会議』を十分に実施することができなかつたため、『地域課題検討会議』として位置づけている、③地域ケア包括合同会議、④チームミーティングは未実施となっております。なお、令和3年度の①自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議は、Zoomを使用し、オンラインにて会議を開催しております。

### ●令和2年度「地域ケア個別会議」実施状況について 資料3

会議の主な目的は、地域包括支援センターや地域のケアマネジャーが担当する困難な問題について、解決に向けた検討をするものです。

本来は地域住民の方々と一緒に検討を行うこととしていたため、民生委員や町会の方などの地域住民（本人・家族を含む）の参加を開催の条件としていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、地域住民のうち高齢者の参加を原則控えることとしました。

今回は、令和2年3月末までに開催した9件、及び開催中止となった1件（No,6）の計10件について、報告させていただきます。資料3

No,10は令和3年の3月に開催したケースで、今回初めての報告となっております。

新型コロナウイルス感染症の影響により通常に比べ実施回数が減少し、参加者も制限されておりますが、今後もコロナ禍での本会議の在り方を模索し、より意義のある会議となるよう工夫していきます。

## 【委員からの意見と回答】

・地域ケア会議についても、当分の間新型コロナウイルス感染症の流行が続いても会議が開催できるような ICT 活用の工夫を検討する必要があるように思います。また、個別ケースで取り上げられる課題を政策に昇化させやすくするためには、地域ケア包括合同会議及びチームミーティングをどのように活性化させるかも検討すべきかもしれません。

⇒（回答）個人情報観点や地域ケア会議の性質を見極め、コロナ禍でも会議を継続していける体制を整えてまいります。また、個別ケースと地域ケア包括合同会議やチームミーティングとの相互性を意識した地域ケア会議運営を行ってまいります。

・コロナ禍の中でもよく活動していただいたと思います。

・オンライン会議開催の検討をお願いします。

⇒（回答）令和3年度においては、「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」はオンラインにて実施しております。他の会議につきましても運用を検討してまいります。

・地域ケア全体会議も新型コロナの影響をうけ、活動が縮小しているようで、携わる方々の苦慮がうかがわれる。

・コロナ禍で大変な中、徐々に会議再開に向けた動きがあり、少し安心しています。ここでも ICT の活用は必須であり、区、包括職員の方々が関われる各種ケア会議を通じて民生委員や町会をはじめとする地域住民の方々に「ICTの活用」を拡げる活動が重要だと感じています。

・事例の要介護度は低く、また介護保険サービスでは解決できない問題も多く、本人達もサービスを希望していない傾向にある。外出はできるが、認知症・精神疾患があり、金銭管理ができない。医療保護入院、グループホーム、更生施設と生活の場が家ではなくなり、行き先のスタッフさん達の日々の対応は大変なものだと思う。

・全体を通し、コロナ禍のなかでの実施、大変にご苦労様です。資料3については、会議の場に居合わせたように、内容の状況が理解できました。

・こんなにも丁寧に対応して下さっていることも知りませんでした。「自分らしく」を尊重して下さっていること、頭が下がります。問題が大きくなる前に、「相談」レベルで少しずつ解決していくような意識をご本人、ご家族、社会全体で持っていくことの大切さを考えました。